

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) カナガワ	フリガナ) ケイザイ	フリガナ) ウラガミ
神奈川	経済	浦上

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ポニー	フリガナ) マツナガ レオ	7	無	
ポニー	松永 玲音			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

SNS を使用した読書についてのアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

日本の教育における読書の重要性

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

今日、スマホが普及し若者を中心とし読書離れが起こっている。読書離れに起こる問題について言及をし、読書離れが起こっている原因を探る。その原因から課題を見つけ、解決策を考える。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

読書のメリットとして言語力、想像力、思考力、理解力、論理力の向上をあげられる。また、本の読み聞かせをする事で言語発達や読む習慣をつけることで論理的思考が身につく。日本で年代別に不読率を調べたところ、高校生、大学生になるにつれ高くなる事が分かった。その理由とし、小学、中学と朝読書を実施している学校が 9 割だが高校になると朝読書を実施している学校が 5 割までに下がっているからと言える。また、文部科学省のデータより、高校が本を読まない理由として他の活動等で時間がなかったから、他にしたいことがあったから、普段から本を読まないからという理由が上位 3 つに上がった。義務教育終了後に読書を

する人が減少する背景には小学、中学と読まなくてはいけないから読む、読まされているという感覚があり、読書習慣がつかないと考えられる。

3. 研究テーマの課題

- ① 読書の頻度と冊数、本の購入頻度と冊数②電子書籍の利用の有無、紙媒体と電子書籍のどちらを多く利用するか、電子書籍に対する印象③読書に対するイメージ、読書習慣は必要かと SNS を利用し大学生 90 名に聞いた。アンケートの分析結果大きく分けて時間がなくて本を読まない人と本に興味がないもしくは嫌いで読まない人の 2 パターンに分かれた。この 2 パターンにターゲットを絞り、どのようにしたら読書習慣を身に付けることができるのか考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

まず、時間がなくて本が読めない人は他の活動を優先して時間が取れないなど読書への優先順位が低いと考えられる。そのため、隙間時間に読書ができ、購入や持ち運びが楽になる電子書籍の活用を勧める。また、読書への優先順位を上げるためにも読書を楽しむ講座やイベントをすることで本に対する考え方を変えることで自分に合ったスタイルで読書の魅力や楽しさを知り、継続的な読書習慣を身につけることができると考える。次に本に興味がない、嫌いな人に対しては読書教育の充実やメディアミックス、広告強化を行うことで本への興味を引き、嫌いでも触れる機会を増やすなど読書へのスタートラインを踏むきっかけ作りをする。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

SNS を通しての読書についてのアンケート

6. 結果や今後の取り組み

年代別で不読率を調べたところ高校生、大学生で不読率が高まっていると分かった。そのため、高校生、大学生をターゲットとし読書への意欲を高める活動をする事で読書離れの改善が期待される。

7. 参考文献

「読書と日本人」津野梅太郎 岩波新書

「本を読む人だけが手にするもの」藤原和博 日本実業出版社

「脳を創る読書」酒井邦嘉 実業之日本社

「本が売れない」というけれど 永江 朗 https://www.j-sla.or.jp/pdfs/material/gakuryoku_kojo.pdf

文部科学省「学校図書館活用ハンドブック」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2017/08/15/1389071_005.pdf

文部科学省「子供の読書活動に関する現状と論点」

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2012/10/22/1323725_13_1.pdf)

文部科学省「アメリカ合衆国の読書環境・読書活動の実態」

<http://www.mgu.ac.jp/~jfmorris/Sotsuron/2009/SugiharaDokusho1.pdf> 「現代社会における読書～読書離れから見るこれからの読書～」(杉原綾佳 2009)

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください